

ふるさとの歴史、自然、人と進んでかかわり、郷土を愛する子供の育成

3学年 総合的な学習の時間「ブラ上滝～歩いて、見て、聞いて、みりよくを伝えよう～」

3学年は、社会科で地域の土地利用の様子について学んだ。社会科の見学を通して、子供たちには上滝にある文化財や自然についてもっと知りたいことがたくさん生まれた。

そこで、総合的な学習の時間では、「ブラ上滝～歩いて、見て、聞いて、みりよくを伝えよう」という単元名で、地域の方に自分たちの疑問を投げかけ、説明していただく学習に取り組むことにした。この学習を通して、地域の文化財、自然、人等にたっぷりふれ、郷土愛を育むことをねらった。

<大川寺>

大川寺は山の中にある由緒ある禅寺である。道沿いに大きな看板があり、大川寺があることを子供たちは知っているが、建物の外観は見えないため、子供たちは「見てみたい」という気持ちをもった。

大川寺では、住職の方が「鎌倉時代から811年も続いているよ」「薬師岳の山頂にある薬師如来は開山前にここからお運びするよ」などと、教えてくださった。本堂の中は仏像や豪華な装飾があり、古くから続く貴重なお寺であることを実感することができた。



【大川寺】

<大アカガシ>

大川寺の近くには、大アカガシの木がある。南方で育つ木であるにもかかわらず、上滝にある大アカガシは30mの高さにまで育っており、知る人ぞ知る貴重な文化財である。大アカガシの隣には、大川寺の33番観音の一番目の観音様がおられることを、住職さんから教えていただいた。

社会科で初めて見学したときから、大アカガシに興味を惹き付けられた子供たちは、住職さんからの話を聞いたことでその価値を学ぶことができ、再び観音様に丁寧にお参りをしていた。



【大アカガシと観音様】

<上滝の自然ー常願寺川河川敷ー>

社会科の見学の際に見た草花の名前について興味をもった子供たちがいたため、地域のナチュラルリストの方とともに、秋の上滝の自然がある常願寺川河川敷に行った。グミ等、草木の実が豊富にあり、子供たちはグミを食べたり、実の名前をナチュラルリストの方に質問したりして、体験的に秋の地域の自然を学ぶことができた。



【常願寺川河川敷】

<常西合口用水、小水力発電、常西プロムナード>

上滝には、常西合口用水、小水力発電、常西プロムナードがあり、常願寺川の豊かな水を生活に生かしている。どれも、子供たちにとって身近ではあるが、くわしくは知らない存在であった。特に、「小水力発電の建物の中はどんなになっているのか」という興味をもつ子供がいたので、上滝観光ボランティアの方と一緒に、常西合口用水横の遊歩道を歩きながら、子供たちの疑問について、見せていただいたり説明をしていただいたりした。

遊歩道には、上滝小学校の卒業生の手形がある。子供たちは、両親の手形を探し、見付けた手形に自分の手を合わせて喜んでた。

子供たちの疑問を明らかにし、それらを元に地域の方とふれあいながら学んだことで、「上滝が好き」という気持ちがさらに大きくなる実践となった。



【常西プロムナードの手形】

4 学年 総合的な学習の時間「上滝環境調査隊～救おう地球を、上滝を～」

<上滝地域の美化活動>

本校の4年生は、1学期に「環境チャレンジ10」に取り組んだ。地球温暖化について学んだことを基に、電気の節約のための家族団らん、ゴミ削減のためのエコバッグの利用等、夏休みに各家庭でできることに挑戦した。子供たちは、「これからも節電や節水を心掛けたい」と環境保全に対する意欲を高めた。

1学期の取組を基に、2学期は自分たちが住む上滝地域の環境に目を向けた。できることを話し合い、地域の美化活動としてゴミ拾いをするようになった。

美化活動では、4つのコースに分かれ、ゴミの種類、落ちていた場所、個数等を記録しながらゴミ拾いを行った。ゴミ拾いを通して子供たちは、ゴミの多さに驚き「なんとかしないとイケない」という思いをもったり、「どうしてゴミが多い地域と少ない地域があるのだろう」と疑問をもったりした。そこで、子供たちは、ゴミ削減を呼びかけるポスターを作ったり、どの場所にどんなゴミがあるか分かるように地図にまとめたりした。ゴミが少ない地域については、学級で話し合い、「誰かが拾っているんだよ」「地域の人かな」とゴミが少ない理由について意見を交わした。そして、地域で美化活動を行っている人がいないか調査をし、話を聞くことにした。



【ゴミを拾い、ゴミの種類を記録する子供たち】



【地域に落ちていたゴミ】



【ゴミの種類を記録した地図】

<地域の方の話を聞いて>

地域で「常西プロムナードの名水と桜を愛する会」として、地域の美化活動に取り組んでおられる方を招いて話を聞いた。常西プロムナードとは、4年生の美化活動でもゴミが少なかった地域にある遊歩道である。話によると、地域の方は「上滝を住みやすい環境にしたい」という思いで、草刈りや桜の手入れ等をしているということが分かった。子供たちは、



【地域の方の話を聞く子供たち】

「上滝を住みやすくしたいという思いの人が集まっているからこそ、常西プロムナードはきれいなんだ」「きれいな常西プロムナードにゴミが落ちていたらみんな拾うだろうし、落とそうと思わないよね」などと感想をもち、努力する人々がいるからこそ、きれいな場所になっているということを知ることができた。また、名水と桜を愛する会の人々が高齢化しており、活動する人が減っているということの問題だという話を聞き、「自分たちも受け継いでいきたい」と発言する子供も多くいた。地域を愛する気持ちを高めていた。



【地域の方に質問する子供】

第5学年 総合的な学習「上滝大陸～上滝のすてきを見つけよう～」 ＜上滝の「すてき」を見付けるためには＞

はじめに上滝の「すてき」を見付けるためにどうしたらよいか話し合い、上滝に住む「すてきな人」にインタビューをすることになった。子供たちがすてきだと思える人を挙げて、インタビューすることに決めた地域の方は、読み聞かせボランティアのAさん、和太鼓クラブ講師のBさん、外国語クラブ講師のCさん、放課後児童クラブの指導員のDさん、上滝でシフォンケーキの店を開いたEさん、上滝でジャムの店を営むFさんの計6名である。話を聞きたい相手が同じ子供同士でグループを組み、質問内容を考えた。

＜上滝の「すてきな人」にインタビュー＞

まず子供たちは、どこで生まれ、今までどのように過ごされてきたのかなど、「すてきな人」について知るための質問を考えた。質問内容を考えていくうちに、どのように言えば相手に伝わりやすく、嫌な気持ちにならないかなど、グループで話し合いながら考える子供たちの姿が見られた。インタビューでは、用意した質問を見ながら、緊張した様子で話を聞いていた。都会から上滝に引っ越して家を建てたEさんにインタビューをしていた子供たちは、「都会なら何でもあるけど、ここは何にもないよ」と上滝に引っ越したことに驚いていた。しかし、Eさんの「自然が多く、地域の人もみんな優しくここに決めた」という話を聞いて、「それは確かに」「自然の多さは都会に勝っている」などと話していた。相手の今までの歩みを知る中で、上滝の「すてき」にも気付いていた子供たち。第1回目のインタビューでは、相手のことを知り、さらに上滝により関心をもつきっかけにもなった。そして子供たちは、もう一度インタビューをして、上滝についてもっと知りたいという思いをもった。



【1回目のインタビューの様子】

2回目のインタビューでは、上滝をテーマに話を聞いた。1回目のインタビューとは異なり、用意した質問以外にもその場で疑問に思ったことを積極的に質問する子供たちの姿が見られた。上滝小学校出身で昔から上滝のことをよく知っておられるCさんからは、昔の写真を見せてもらった。大勢の子供で賑わう様子や、どんなお店も揃っている商店街の様子等、今とは違う昔の上滝の様子に子供たちは興味津々であった。そして今では見られない上滝の「すてき」も見付けることができた。ジャムのお店をされているFさんにインタビューをした子供たちは、実際にジャムのお店まで行きインタビューを行った。インタビューを終えた子供は「こんな田舎だけど、



【昔の写真を見る様子】



【店でインタビューをする様子】

人気のお店になるのがすごい、すてきなジャムのお店が上滝にあることが嬉しい」と誇らしげに話していた。様々な方へのインタビューを通して、子供たちは昔と今の両方の上滝の「すてき」を見付けることができたのではないかと思う。

＜上滝の「すてき」を伝えるために＞

上滝の「すてき」を見つけた子供たちは、自分たちが見つけた上滝の「すてきな人」「すてき」をみんなにも知ってほしいという願いをもった。そこで、グループごとに伝えたい内容をまとめ、劇も交えながら学習発表会で全校に発表した。自分たちがインタビューを通して知ったことを発表するため、発表に向けて意欲的に準備する姿や、練習する姿が見られた。

この学習を通して、昔から現在までの上滝の「すてき」をたくさん見付けることができた。そして、最後の振り返りには「将来、美容師になって上滝に美容院を開き、人気のお店にして昔の上滝のような賑わいを戻したい」「大工になって、上滝にみんなが住みたくくなるような素敵な建物をたくさん建てたい」と書くなど、自分の将来と地域を結び付けて考えている子供たちもおり、学習前より地域に対しての思いが深まった。



【上滝の昔の様子の劇】

第6学年 総合的な学習「私たちが広げる地域の輪『カフェ和いわい』」

＜地域の方から『カフェ和いわい』への思いを聞く＞

運営に関わる地域の方をゲストティーチャーに迎え、「カフェ和いわい」開催への願いや目的を教えていただいた。災害時に避難所となる学校への道の確認や、家にこもりがちになっているお年寄りが外出するきっかけづくりなど、「上滝地区に暮らすお年寄りが心も体も元気になる場所をつくりたい」というゲストティーチャーの思いを知ることができた。お話の中で子供たちが一番心に残ったのは、「みなさんのような子供たちの笑顔を見たり、声を聞いたりするだけで私たちは元気になれるのです」という言葉だった。お年寄りとの触れ合いが楽しみになった子供たちは、お年寄りを元気にしたいという気持ちを大切にしながら、7月の「カフェ和いわい」でどのような活動をすればよいか話し合った。



【ゲストティーチャーに質問する子供たち】

＜お試し「カフェ和いわい」＞

「カフェ和いわい」が開かれる時間の中で、45分間を6年生主催のコーナーにした。地域の方々との初めての出会いだったので、子供たちは自己紹介と学校探検を計画した。音楽に合わせてボールを回し、止まった人が自己紹介をするというゲームをしたり、お年寄りが身体の調子によって選べるようにいくつかのコースに分けた学校探検をしたりするなど、前回のお話を参考に、お年寄りに対する思いやりにあふれる内容となり、20名ほどの地域の方と温かい時間を過ごした。



【ボールを回して自己紹介】

<第1回、2回「カフェ和いわい」>

7月のお試し会の後、子供たちは活動を振り返った。第1回に向けての成果と課題が見付かった。参加予定人数が前回よりも多い55名と知った子供たちは、地域の方が自分たちとの関わりを楽しみにしてくれていると感じ、活動内容を充実させたいと意欲的に準備に取り組んだ。子供たちは、前回の活動からお年寄りの体調や体の都合が一人一人違うことを

学び、実際にお話をする中でお年寄り一人一人のニーズに合った活動を取り入れることが必要だと考えた。体を動かしたい人や今の学校の様子を知りたい人、足が不自由な人等、どんな人も楽しめるように「学校探検」「授業参観」「児童作品鑑賞」「伝言ゲーム」を用意し、お年寄りが自分に合った活動を選べるように工夫した。また、グループに分かれ少人数で関わったため、子供たちは地域の方と前回よりたくさん話すことができたとうれしそうに感想を話していた。

たくさんの地域の方が自分たちとの交流を楽しみにしてくれていることを肌で感じた子供たちは、もっともっと地域の方一人一人と仲よくなりたくて願うようになった。そこで、第2回ではお年寄りと子供たちが協力して答えを考えるゲーム大会を開催した。

「カフェ和いわい」に参加してくださるお年寄りの方々には、子供たちの全てを温かく受け止めてくださった。進行の言葉に詰まり、スムーズに進まないときも「大丈夫だよ。ちゃんと聞こえてるよ。」と子供たちに声をかけてくれる。自分たちが一生懸命考えた活動を心から楽しみ、一緒に盛り上げてくれる。そんな地域の方の優しさに直接触れることで、人を通して自分たちの住む上滝地区のよさを子供たちは感じる事ができた。また、人前で話すことに挑戦してみようとする子供や、その場に応じて柔軟に対応する力が育った子供など、「カフェ和いわい」で深まった地域の方とのつながりや温かな雰囲気があったからこそ生まれた子供たちの成長もたくさん見られた。

<よかったところ>

A.K: 自己紹介のゲームで音楽が止まるとみんな笑顔になっていた。

N.R: 初対面でも仲よく会話ができていたよ。

T.H: お年寄りが明るくて、最初話すことができるか心配だったけど、お年寄りの方に助けられた。

<課題>

S.N: お年寄り同士で話をしている、ぼくたちとの会話が少なかった。

T.T: グループの中の6年生とお年寄りの割合を考えないといけない。

G.G: 学校探検で、お年寄りを焦らせてしまった。もっと一緒に歩いてあげればよかった。

N.R: 一人一人ペースが違うから、そこも工夫したい。

【「カフェ和いわい」お試し後の振り返りより】



【お年寄りと6年生がふれあう様子】